

令和6年度 大田区立松仙小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

令和7年3月5日

○児童数 717名 ○学級数 22学級 第1・2学年:3クラス、第3～6学年:4クラス(令和6年5月1日現在)

○教育目標 「じょうぶな子ども」「よく考える子ども」「思いやりのある子ども」

○学校経営方針 国際化、価値観の多様化など、社会の変化に対応できる新しい学校教育の創造に努め、これまでの本校の歴史、伝統、特色を継承した豊かな人間関係の中で次の5点を重視した学校教育を進める。
①体力向上 ②学力向上 ③豊かな心の育成 ④未来を創造的に生きる児童の育成 ⑤多様な学びの場の構築

○本校の特色 ・「学力の向上は、体力の向上から」との共通理解を図り、一人一人の体力の向上を目指す。
・児童理解のさらなる充実に向け、休み時間には教師も共に遊ぶ「とも遊び」の推進。
・松仙スタンダードの実践 ・学校支援地域本部(サポート松仙)と連携した教育活動の充実。

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄				
								評価	人数	コメント		
生予個 き測別 力難標 をな1 育未成 来し社 会を創 造的に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。 ②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。 ③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	児童アンケート「友達や周りの人のために何かをしたり、協力したりしています。」の質問項目に、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した児童の割合	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	児童アンケート「友達や周りの人のために何かをしたり、協力したりしています。」の質問項目に、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した児童の割合 ①校内研究で教科「おたの未来づくり」に取組み、5,6年生ではSTEM教育等の教科横断的な学びを実践し、創造的な資質・能力の育成を目指している。また、12年生は生活科、3,4年生では総合的な学習の時間を中心に、STEM教育等の教科横断的な学びを実践し、創造的な資質・能力の育成を目指して素地づくりに取り組む。 ②様々な体験活動や自己評価・振り返り活動を通して、自ら考え判断する力や他者と協働していく力の育成に取組んだ。今後、学習や生活を振り返り、自己評価をする習慣が身に付けられるよう取組むことで、自己肯定感の育んでいきたい。 ③Chromebook活用推進プランに沿って学年ごとに取組み、身に付けさせる資質・能力の育成を図るとともに、発達段階に応じた情報モラル教育を推進するために、年間指導計画に沿って取組んでいる。	A	8	・様々な体験活動に積極的に取り組まれている。 ・STEM教育は、これからの日本を支えるIT社会、グローバル人材を育成していくうえで大切さと思う。児童の問題解決能力を育てるためにも重要。 ・自ら判断する力や肯定感などは、成長に応じて助言したり、見守ったりしてほしい。 ・1～6年生まで児童は明るく好奇心旺盛で、様々な取組みに積極的に活動している。 ・教科横断的な学びができるよう、各学年の教員が連携し取り組んでいる。		
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満		児童アンケート「外国語活動に、すすんで取組んでいますか。」の項目に肯定的な回答は、84% ・よくわかる 51% ・だいたいわかる 33% ①英語カフェの開催や授業における英語で伝えあう活動に取組み、英語に慣れ親しむ機会を増やした。今後さらに、実践的コミュニケーション能力の向上を図り、豊かな国際感覚の育成を目指していく。 ②ゲストティーチャーによる、かるた作りや落語・和菓子作り体験等、伝統や文化を学び郷土への関心を高めるとともに、オペラや音楽鑑賞を通して異文化に触れる機会を設け、価値を広げ、情操教育に取組んだ。来年度も豊かな心を育んでいけるよう情操教育活動を行っていく。 ③6年生が家庭科学習の一環として、学校周辺の清掃活動に保護者・地域の方々と一緒に取組んだ。地域の課題を見出し、その課題を解決する行動力の育成を目指していく。	A	10	・これからも地域としてこども達のために協力していきたい。 ・体験できる学習は、記憶に残っていくのでたくさん機会を与えてほしい。 ・地域や各種団体を交えた授業を積極的に取り入れ、文化や国際社会、地域に感心もてる機会をつくり効果をあげている。	
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満			保護者アンケート「学校は、体育指導・給食指導・保健指導等で、健康教育・体力向上に努めている。」の項目に肯定的な回答は、94.9% ・はい 75.7% ・どちらかと言えばはい 17.4% ①道徳科主任を中心にOJTを開催し、道徳科授業の充実を図るとともに、代表委員会を中心とした挨拶運動や思いやり活動として「思いやりの木」を校内に設置し全校児童が思いやりの行動に感じたことを記入して貼る活動に取組んだ。今後も豊かな情操や道徳心を培うために道徳教育や活動を推進していく。 ②算数における習熟度別少人数指導や補習教室、4,5,6年生における自主学習への取り組み等、児童の学力向上に努め、主体的に学習に取り組む態度を育成し、学習習慣の定着を目指す。 ③休み時間に教員も児童と共に遊ぶ「とも遊び」の推進や、「びよんびよんデー(短編)」「長縄チャレンジ」等に全校で取り組み、体力の向上や運動に親む態度を育んだ。また、家庭科・栄養士・養護教諭を中心に食育や健康教育の推進を図り、基本的な生活習慣の確立を目指し取り組んだ。来年度も継続して取り組み推進を図っていく。 ④1年生が中心になり、地域内の保育園や幼稚園との交流活動を3回行った。また、年間を通して低学年の教員が「保幼小連携」の研修会に参加し、情報共有や指導実践を学び、実践に生かしている。小中一貫教育では、年間4回の交流を行い、ICTの効果的な活用を共通課題として各教科で取り組み、成果や課題を共有し実践してきた。今後も、成果と課題を図り教育活動に生かしていく。	A	10	・「早寝早起き朝ごはん」運動の基本的な生活習慣に、取り組んでもらいたい。 ・保護者から体力向上に努めていると肯定的な回答をいただき、素晴らしい。 ・地域内の保育園、幼稚園をはじめとした交流を取り入れながら、連携を強化し乳児期から、中学校までの一貫性のある教育を目指す努力をしている。 ・こども本来の力を授業以外の休み時間に効果的に活用しながら、教員も一緒に遊ぶ等、児童の力を伸ばし、体力向上に寄与していると感じる。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満				児童アンケート「外国語活動に、すすんで取組んでいますか。」の質問項目に、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した児童の割合	A	10
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	児童アンケート「外国語活動に、すすんで取組んでいますか。」の質問項目に、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した児童の割合	A	10	・「早寝早起き朝ごはん」運動の基本的な生活習慣に、取り組んでもらいたい。 ・保護者から体力向上に努めていると肯定的な回答をいただき、素晴らしい。 ・地域内の保育園、幼稚園をはじめとした交流を取り入れながら、連携を強化し乳児期から、中学校までの一貫性のある教育を目指す努力をしている。 ・こども本来の力を授業以外の休み時間に効果的に活用しながら、教員も一緒に遊ぶ等、児童の力を伸ばし、体力向上に寄与していると感じる。						
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満		児童アンケート「外国語活動に、すすんで取組んでいますか。」の質問項目に、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した児童の割合	A	10	・「早寝早起き朝ごはん」運動の基本的な生活習慣に、取り組んでもらいたい。 ・保護者から体力向上に努めていると肯定的な回答をいただき、素晴らしい。 ・地域内の保育園、幼稚園をはじめとした交流を取り入れながら、連携を強化し乳児期から、中学校までの一貫性のある教育を目指す努力をしている。 ・こども本来の力を授業以外の休み時間に効果的に活用しながら、教員も一緒に遊ぶ等、児童の力を伸ばし、体力向上に寄与していると感じる。					
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満			児童アンケート「外国語活動に、すすんで取組んでいますか。」の質問項目に、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した児童の割合	A	10	・「早寝早起き朝ごはん」運動の基本的な生活習慣に、取り組んでもらいたい。 ・保護者から体力向上に努めていると肯定的な回答をいただき、素晴らしい。 ・地域内の保育園、幼稚園をはじめとした交流を取り入れながら、連携を強化し乳児期から、中学校までの一貫性のある教育を目指す努力をしている。 ・こども本来の力を授業以外の休み時間に効果的に活用しながら、教員も一緒に遊ぶ等、児童の力を伸ばし、体力向上に寄与していると感じる。				

<p>学個別 校力目 標教4 師力を 向上さ せませ ます</p>	<p>校内研究等の OJTの充実を 通して、教師 の授業力を 向上させま す。また、質 の高い教育 を実現する ため、学校 の組織的な 運営力を 向上します。 あわせて、 教師がやり がいをもち ながら、教 師がやりが いをもてる 魅力的な環 境づくりを 進めます。</p>	<p>①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。</p> <p>②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特徴を生かしたりして教育活動を行っている。</p> <p>③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。</p> <p>④校内外の研究や研修、日々の教員間の授業観察を通して授業力の向上を図っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>保護者アンケート「こどもは、分かりやすい授業・楽しい授業を受けている。」の項目に肯定的な回答は、87.9%</p> <p>保護者アンケート「学校は、こども一人一人を大切に指導に努めている。」の質問項目に、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した保護者の割合</p>	<p>4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満</p>	<p>保護者アンケート「こどもは、分かりやすい授業・楽しい授業を受けている。」の項目に肯定的な回答は、87.9%</p> <p>①1学期は授業改善全体計画に基づき、児童の実態を把握し、夏休みに授業改善プランを学年ごとに作成している。2学期からは児童の実態に応じた授業改善を意識し取組む。授業の充実と学力の向上を目指している。今後は、共通のあてのみではなく、個別の学習課題設定も発達段階に応じて取り入れる。</p> <p>②月1回の大田区教育研究会の参加し、専門性を高めるとともに、模範授業に参加を促し、学びの機会が得られるよう組織的に取り組んでいる。今後は、学んだことを教員全体に伝え、学びを広げようとしている。</p> <p>③3,4年生は、道徳科を中心に授業交換、5,6年生は、理科と社会科において、教科担任制を取り組み、教材研究や児童と向き合う時間の確保に努めている。今後は、児童に向き合う時間を確保できるように業務改善を図っていく。</p> <p>④校内研究や校内OJT研修の実施、研究発表会に参加等を通して、授業力向上に取り組んだ。校内研究会は年間2回の研究授業の実施となった。来年度は、年間7回の研究授業に取組むとともに、研究の成果を各学年の指導に生かすことが今後の課題である。</p>	<p>・「はい」の割合が53.7%で半分という理由について知りたい。 一保護者は学校公開(年3回、1回の授業参観は3時間)で授業を参観している。授業公開アンケートは好意的な記述が多い。</p> <p>・忙しい中で教員は教育研究会の参加やOJT等、学ぶ機会と捉え、時代に合った教育や教育の質の向上を目指している様子が伺える。 そのため、授業を参観する機会が少ないことが影響しているかもしれない。</p> <p>※児童アンケート「授業中、勉強が分かりますか。」項目に肯定的な回答は、92%「よくわかる 58%」「だいたいわかる 34%」</p> <p>・学校全体の先生方の業務負担増加が心配。 ・先生方が切磋琢磨して、児童のために頑張っていることが伝わる。</p>
<p>た自個 め分別 のら目 学し標 びく5 をい き支 援い しと 生さ きる</p>	<p>困難のある 児童・生徒 一人ひと りの状況 にあわせ て教育環 境を整え るととも に、相談 機能の充 実を図る ことで、 すべての 児童・生 徒が自分 らしくい きいきと 生きるた めの学び を支援し ます。</p>	<p>①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。</p> <p>②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。</p> <p>③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。</p> <p>④ほのぼのルームや保健室等、児童の状況に応じた学習環境を整えている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>保護者アンケート「学校は、こども一人一人を大切に指導に努めている。」の質問項目に、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した保護者の割合</p>	<p>4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満</p>	<p>保護者アンケート「学校は、こども一人一人を大切に指導に努めている。」の項目に肯定的な回答は、87.7%</p> <p>①特別支援教育の充実を図るために、夏休みと専門的な外部講師による研修会を開催しケーススタディーに取り組み実践的な理解推進を図った。また、個別のニーズに応じた多様な学びの場を提供できるように支援体制を構築し、充実を図るとともに、巡回指導教員や特別支援教室専門員と連携して対応した。今後は必要に応じて、ケース会議を継続し、支援が途切れないように申し送りやつながりの意識をもつて取り組んでいく。</p> <p>②いじめなどの学級、どの児童にも起こり得るものという認識のもと、週1回の生活指導夕会や常時開催のいじめ防止対策委員会の場を活用し、情報共有、組織的対応に努めた。今後は早期対応・早期解決を目指し、組織的対応の向上を図っていく。</p> <p>③学校生活調査を活用した取組を毎学期実施した。ストレス症状に基づいて児童との個別面談を行い、必要に応じてスクールカウンセラーや他機関につなげ連携を図っている。日頃からの児童の実態把握に努め、言動や行動等の変化を観察し、早期対応を行っている。</p> <p>④様々な要因で教室に入れず授業に参加できない等、児童の居場所を校内に設置し、個に応じたペースで学習に取り組めるよう担任・養護教諭・学校特別補助員・支援員等と連携を図って対応してきた。今後は、さらなる充実を図るよう組織全体で取り組んでいく。</p>	<p>・地域として協力できることがあれば、協力します。 ・校内に児童の居場所づくりの活用状況について知りたい。 ・児童の状況に寄り添って、様々なアプローチにより教育環境を整える努力をしている。</p>
<p>安全柔個 心・軟別 な目 教育標 環境造6 をつ くり ます と安</p>	<p>学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。</p> <p>②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。</p>	<p>①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。</p> <p>②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>保護者アンケート「学校は、月に1回の避難訓練や安全指導等を実施している。」の質問項目に、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した保護者の割合</p>	<p>4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満</p>	<p>保護者アンケート「学校は、月に1回の避難訓練や安全指導等を実施している。」の質問項目に肯定的な回答は、94.9%</p> <p>①学校・家庭・地域が連携し、こどもを育てる意識を高めるために、学校施設の開放や施設使用後の校庭清掃や体育館の清掃等に協力いただき、地域連携に努めている。また、地域の伝統的な取り組みや催しに参画し、協力体制の構築を図っていく。</p> <p>②月1回の避難訓練や安全指導日を計画的に実施するとともに、防災教育を学校公開日に取り組み、保護者・地域と共有し、危険や災害に対する教育の連携を図った。今後は、保護者・地域・関係機関との連携を図り、安全・安心を向上させる教育に取り組んでいく。</p>	<p>・学校と地域との交流で災害に対応できる関係を築いていく。 ・久が原地区で行う学校防災拠点訓練に保護者の方の参加を地域として呼びかけていきたい。 ・地域の避難訓練と連携した防災教育に協力いただきたい。</p>
<p>学地学個 校域校別 をコ・目 つミ家 く庭標 りニ・ まテ地 すイ域 の核 運と携 して協 働による</p>	<p>地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。</p>	<p>①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。</p> <p>②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。</p> <p>③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。</p> <p>④ホームページや学校・学年だより・保護者会等を通して保護者や地域に教育活動の様子を伝えるとともに、地域の教育力を生かした体験活動に取組む。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>保護者アンケート「学校は、家庭や地域と連携して、教育活動の充実を図っている。」の質問項目に、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した保護者の割合</p>	<p>4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満</p>	<p>保護者アンケート「学校は、家庭や地域と連携して、教育活動の充実を図っている。」の項目に肯定的な回答は、91.8%</p> <p>①5,6年生における「おたの未来づくり科」の学習では、保護者・地域と連携し、地域商店街や企業と協働した活動を行うことができた。また、1～3年では保護者・サポート松仙と連携し、地域学習を行った。4年生はサポート松仙と連携し、かるたづくりを通して日本の伝統文化を学び、体験活動を充実させることができた。</p> <p>②登下校の見守り活動、1年生の集団下校等、PTA・保護者や地域の方々の協力により、登下校の危険箇所や課題点等共有し、見守り活動を実施することができた。</p> <p>③まなびポケットの保護者連絡機能を活用し、家庭教育に関する情報を発信している。また、学校公開の道徳教育地区公開講座では、情報モラルについて「自分で判断できる力を養うために」をテーマに、保護者向け情報モラル教育を実施した。約500名の保護者が参加することができ、実施後のアンケートでは「家庭で話合ったり、取り組んだりしていきたい」という意見を多くいただいた。</p> <p>④学校HPを毎日更新し、児童の学習と生活の様子を継続発信してきたことで、多くの保護者から感謝や継続発信の願いが届いている。また、まなびポケットの保護者連絡機能やホームページを活用し、教育活動の情報や児童の様子を発信するとともに、サポート松仙と連携した夏のおくわくスクール、地域商店街や企業と協働した授業や、おやじの会主催の年間5回のイベント等、保護者・地域と連携を図り体験活動に取り組んだ。今後は連携を密に図り、協働的な体験活動を充実させていく。</p>	<p>・これからも地域との協働をお願いしたい。 ・学校・家庭・地域の連携がより良くなることで、教育力の向上につながるかと考える。 ・地域・商店街や関係機関・団体と連携しながら授業づくりや勉めたり、学校の授業だけではできない経験を通して、地域の方々と触れ合いながら、日本の文化・伝統を育んでいる。 ・子どもたちにとって、よりよい環境になるように、地域としてお手伝いできることに協力していきたいと思ふ。 ・情報発信をあらゆる機会、方法を使って取り組んでいる。</p>

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す